嫁っこ淵の話

昔、浅舞の新平川という村に美しく、気立ての良い娘が居り、阿気桜森のある家へ嫁いだ。夫も真面目な働き者で夫婦仲良く暮らしていたが、家で騒動が持ち上がり、夫は入水して果てた。その地を婿淵と呼んでいる。残された嫁は嫁いびりに耐えていたが、ついに二年後家をとびだし、夫が身を投げた淵に向かった。赤い鼻緒の草履を残して大きな淵に身を投げた。それから人々はこの淵を「嫁っこ淵」と呼ぶようになった。